



議会だより



白組疾走！

吾妻小学校運動会

平成29年6月定例会

あらまし・議案審議	2
請願・委員会提出議案・予算審査特別委員会	・	4
一般質問 9人が登壇	5
委員会レポート	14
町民の声	16

あらまし

平成29年第3回6月定例会は、6月6日から6月15日まで開催されました。

町長から提出された議案は、専決処分の報告3件、平成28年度繰越明許費に係る報告1件、出資法人等に係る経営状況報告6件、専決処分の承認5件、平成29年度補正予算5件、条例の一部改正7件、工事請負契約の締結2件、財産の取得2件、農業委員任命同意12件であり、原案のとおり可決しました。

一般質問は9人の議員により行われました。

【審議した主な議案】

「猪苗代町地域振興施設の設定及び管理に関する条例の一部を改正する条例」

道の駅猪苗代六次加工室の利用料金が、一室一時間900円と決定。営利目的の場合は他に加算される。

「道の駅猪苗代を防災拠点とするため、ヘリポート整備工事の契約が締結」

契約金額 9558万円
工期 平成29年10月20日

「猪苗代駅前の利便性向上を図るため、再整備工事の契約が締結」

契約金額 2億1960万円
工期 平成30年3月30日

【除雪車2台を取得】

・除雪ドーザー11トン級 1台
取得金額1563万3千円
・ロータリ除雪車1・3m級1台
取得金額1763万6400円

【主な質疑・討論】

「道の駅ヘリポート整備工事請負契約の締結」

問 指名や入札で資格を有しない業者が入るのか。

答 適当でない業者があった。今後は細心の注意を払い事務執行を行っていく。

問 町側に間違いがあった入札は正當か。

答 一部、100パーセントの資格を有しない業者があったことは認める。しかし、落札した業者はなんの問題もなく、適法に成立した。

【反対討論】

【瀧田勝昭議員】

町の瑕疵による欠落があると判断できる。入札自体が無効と考えるので反対。

【渡辺二公議員】

法律、条令に基づき、一点の瑕疵もないように提案するべきと考え反対。

【五十嵐三子議員】

資格がない業者を入札に参加させたことは納得がいかないの

【賛成討論】

【渡辺眞一郎議員】

資格のない人が入札してはいけないということではない。この入札は問題がないので賛成。

「猪苗代駅前再整備工事請負契約の締結」

問 入札参加者のうち5社が管工事の資格がないが。

答 地元業者に工事を発注したい経過があった。どの業者も理解し入札に参加した。

問 無散水消雪施設施工の特許等の確認は。

答 国内特許を取得している。専門的な管工事などは下請けに出すのか。

答 一般建設業の許可を持って

問 いる業者である。縛りはあるが下請けも出せる。

答 建設業法上、4千万円以上の下請けは出来ないが。

問 工種ごとに4千万円である。工種が多岐に渡っているため、問題ないと考える。

【反対討論】

【瀧田勝昭議員】

不適当な入札が実施された契約は無効ではないかという疑義があるので反対。

【関沢和人議員】

このような入札のあり方で、請負契約締結することは議会の役割が疑われることになるので反対。

【五十嵐三子議員】

基本的なことをやっていない。このようなことでは良い入札ができないため反対。

【審議した議案と可決状況】

件名	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	結果
	星野あけみ	瀧田勝昭	佐瀬真	細貝功人	佐藤英一郎	大橋清喜	渡辺二公	長澤操	金本久美子	渡辺眞一郎	五十嵐三子	佐藤光幸	関沢和人	後藤公男	長沼一夫	
道の駅ヘリポート整備工事請負契約の締結について	×	×	×	×	○	○	×	○	○	○	×	○	×	○	○	可決
猪苗代駅前再整備工事請負契約の締結について	×	×	×	×	○	○	×	○	○	○	×	○	×	○	○	可決
専決処分の承認を求めることについて (平成28年度猪苗代町一般会計補正予算(第10号))	×	×	○	×	○	○	×	○	○	○	○	○	×	○	—	承認

上記以外の議案については全会一致で可決しました。
※賛成は「○」、反対は「×」、同数の場合には議長が採決に加わる。

「専決処分の承認を求めることについて(平成28年度猪苗代町一般会計補正予算(第10号))」

問 特別交付税及び震災復興特別交付税の増減理由は。

答 特別交付税1億9800万円の増額は、暖冬の影響もあり、除排雪経費が少なかったためである。

問 震災復興特別交付税651万8千円の減額は、これまでも対象だった事業が外れたためである。

問 専決処分の中で、教育施設整備等基金の積立てを行うのは、財政規律上、問題があるのでは。

答 1つの補正予算として考えれば、特定目的基金への積立てもあると考えたが、財政調整基金への積立てが適正であるという指摘を踏まえ、今後の特定目的基金は、厳正に予算編成を行っていく。

問 地方自治法では、予算の明許繰越しは3月31日までに議決を得る、もしくは報告することになっている。なぜ議決を得ずに行ったか。地方自治法違反では。

答 あくまでも、専決処分の日は3月31日であり、法令違反にはあたらないと考えている。

討論多数 猪苗代駅前再整備工事がスタート!!



再整備が決まった猪苗代駅前

一般質問 町政を問う



細貝 功人

Q. 空家対策条例制定に向け、具体的な対応策は
A. 現在、条例制定は考えていない

読書条例の制定は
【細貝】見解、考え方は。
【教育総務課長】平成28年から第二子
ども読書活動推進計画を策定し、



本をたくさん読もう

学校図書を選定は
【細貝】誰がどのように行っているか。
【教育総務課長】図書館教育を担当する
教職員と、司書補が各教科を担当
する先生と相談して選定している。
【細貝】今後の選定はどうすべきと考え
るか。
【教育総務課長】特に苦情等、問題もな
いと思っている。今後も同様の方
法で行いたい。

道徳教科化への対応は
【細貝】小学校では30年度、中学校では
31年度から道徳が特別教科になる
が。
【教育総務課長】文部科学省の有識者会
議で議論を進めている。県内でも
それに対応する研修会が開かれる
予定である。
新しい道徳の授業では、人の気
持ちを自分のこととして考えさせ、
議論する道徳へ展開したいと考え
る。

読書活動を積極的に推進している。
この計画を行うことで、読書条例
の制定までは必要ないと考える。
【細貝】当町の子どもの読書の現状は。
【教育総務課長】小中学校では、関心が
高まっている。
【細貝】読書を増やすための対応策は。
【教育総務課長】最低限週1回以上は読
書タイムを設けている。「猪苗代
わくわくブック運動」も継続して
いきたい。
【細貝】司書の数。
【教育総務課長】学校司書補は7名で、
内2名が兼務している。

空き家等の対策は
【細貝】空き家の実態調査の検証は。
【総務課長】空き家の有効活用と、危険
な空き家への対応、その両面で効
果的な施策を推進していくため、
空家等対策の推進に関する特別措
置法第6条に基づく空家等対策計
画を策定する予定である。
【細貝】特定空き家（危険な空き家）へ
の対応は。
【総務課長】著しく危険な空家について
は、空家等対策の推進に関する特
別措置法に基づき、実態調査、助
言や指導、勧告等の対応を実施し
ていくとともに、各行政区との協
力体制の強化に努めたい。



対策が急がれる「危険な空き家」

あなたの声を審議しました!!

3月定例会で審議された「請願」の結果は次のとおりです。

区分	件名	紹介議員氏名	付託委員会	審議結果
請願	政治分野への男女共同参画を推進するための法整備を求め る意見書	渡辺 二 公	総務	継続 調査
	I 女性会義猪苗代班 副代表 藤原 澄子			
	労働基準法改定案（閣法）の撤回を求める意見書	渡辺 二 公	総務	不採択
	I 女性会義猪苗代班 副代表 藤原 澄子			
	特定複合観光施設区域の整備の推進に関する法律の廃止を 求める意見書	渡辺 二 公	経済 建設	不採択
	I 女性会義猪苗代班 副代表 藤原 澄子			
	「共謀罪（テロ等準備罪）」に反対する意見書	五十嵐 ミエ子	総務	継続 調査
	日本国民救援開 会津支部 支部長 佐藤 審也			
	「国の被災児童生徒就学支援等事業の継続と、被災児童生徒 の十分な就学支援を求める意見書」の提出を求める請願書	渡辺 二 公	文教 厚生	採択
	福島県教職員組合 中央執行委員長 角田 政志 福島県教職員組合 北会支部 支部長代行 猪俣優子			

【委員会提出議案】

被災児童生徒就学支援等事業の継続と、被災児童生徒の十分な就学支援を求める意見書

【提出者】文教厚生常任委員会
【内 容】東日本大震災によって経済的に困窮している家庭の子どもたちの就学・修学を保障するため、平成30年度以降も
全額国費で支援する「被災児童生徒就学支援等事業」の継続と、十分な就学支援に必要な予算確保を行うこと。

予算審査特別委員会

平成29年度一般会計補正予算

【主な質疑】

歳入

《諸収入》

問 東京電力原発事故賠償金の内訳
と未納分は。

答 平成23年分から25年分までの東
京電力と合意した711万6千円
で、合意していない部分は引き続
き交渉していく。

歳出

《消防費》

問 消防団加入促進支援事業とは。
答 イベント等で、消防団活動のP
Rを行い、若者や女性を消防団へ
の加入促進を図る。

《教育費》

問 猪苗代湖ハーフマラソンへ町の
補助金300万円が増額された理
由と、今後補助金を増加せずに
行っていく方法は。

答 見込んでいる参加料と協賛金の
不足である。今後、魅力ある大会
にするために、開催時期の検討を
県陸上競技会と進めている。

平成29年度国民健康保険特別 会計補正予算

問 国民健康保険繰入金の残額は。

答 794万6千円である。

問 医療給付が伸びた際の補填の財
源となるが、基金の運用の仕方と
考え方は。

答 本来であれば、1億から1億5
千万円程度保留すべきものである
が、税額を抑えるためにここまで
基金が減少した。今後の国保会計
の運営で余剰金があれば積み立て
ていく。

平成29年度介護保険特別会計 補正予算

問 地域包括ケアシステム構築推進
事業とは。

答 生活支援体制整備事業を構築す
るため講師等の派遣依頼をする。
他に、介護予防のための地域ケア
個別会議の円滑な運営を学ぶ研修
が行われる。



10月22日に行われる
第7回猪苗代湖ハーフマラソン



渡辺 真一郎

Q. 県立猪苗代高等学校国際観光科の全国公募は可能か

A. 県教育委員会が認めれば可能

猪苗代高校の今後は

【渡辺】生徒数減少が続く、存続が懸念されるが。

【教育総務課長】ここ数年、ずっと定員割れが続いており、存続は厳しいと認識している。

【渡辺】長野県白馬高校では、国際観光科を新設し、生徒の全国公募を行い、生徒数を40パーセント増やした。猪苗代高校でも全国公募は可能か。

【教育総務課長】県教育委員会が認めれば可能である。猪苗代高校の存続、発展のため、アイデアを求め、要望活動を行っていく。



県立猪苗代高等学校の存続を

猪苗代湖の水質回復策は

【渡辺】猪苗代湖が水質日本一に回復できない最大の課題は。

【企画財務課長】要素が複雑で、水質悪化の原因特定ができない。

【渡辺】下水道、浄化槽の接続率が低いことも要因では。

【企画財務課長】因果関係ははっきりしない。

【渡辺】水質日本一を取り戻すことを目的に、企業版ふるさと納税を依頼してはどうか。湖への汚水流入を防ぎたいという自治体の強い熱意があれば、企業や猪苗代湖とかかわりのある市町村も動くのでは。

【企画財務課長】可能となるよう、施策の展開を検討していく。

また、町のホームページ等への掲載も検討し、一般のふるさと納税でも、寄付がし易くなるよう考えていく。

A-1(人工知能)活用は

【渡辺】自治体でのA-1実証実験が行われたが。

【総務課長】川崎市、静岡県掛川市で子育て支援制度に関する問い合わせに対し、A-1が対話形式で回答する実証実験が行われた。アンケート結果では反響が大変良く、継続希望が8割以上に上ったということであった。

【渡辺】国はA-1を活用、推進する方針だが、対応は。

【総務課長】費用対効果も見極めながら調査研究をしていく。業務の大きな効率向上が期待できるが、どういった分野で活用が可能なのか検討していく。

【渡辺】近い将来、行政事務は人からA-1に代わり、自分が望まない業務に就く職員も出てくると予想されるが。

【総務課長】配置された業務には十分適応できると考える。

ゴミ回収の現況は

【渡辺】町民のゴミへの周知は。

【町民生活課長】各家庭に配布しているゴミリサイクルカレンダーにより収集しており、特に大きな問題はない。

【渡辺】粗大ゴミの現状と課題は。

【町民生活課長】家庭系と事業系に大別されるが、問題となるのは事業系で、建築廃材と農業資材などで引き取れない場合は、正しい方法での処理をお願いしている。



地区に設置のゴミステーション

【渡辺】生ごみの現状は。

【町民生活課長】21地区から回収している。その他に各学校やこども園、道の駅等からも回収している。給食の残渣や事業系の水切りが不十分等、問題がある。

【渡辺】学校の対応は。

【教育総務課長】給食の献立は栄養のバランスも考えており、各学校で残渣が出ないよう指導している。

【渡辺】優良堆肥の販売状況は。

【農林課長】牛糞と生ごみを原料として平成28年度販売932トン、販売額561万余である。昨年は春先から注文が多く、6月に在庫がなくなり、9月まで販売中止となった。畜産農家の減少もあり、堆肥の生産不足が課題である。

【渡辺】優良堆肥製造施設の現状は。

【農林課長】試験稼動から10年が経過しており、老朽化している。現場担当者で日常点検し、補修や部品交換等、適時に対応している。

婚活への対策は

【渡辺】町の独身者への対応は。

【企画財務課長】町も民間団体の婚活パーティーやイベント等がある場合は支援していく。

【渡辺】県が整備した「はぴ福ナビ」や登録会員制度への考えは。

【企画財務課長】福島県と公益財団法人県青少年育成男女共生推進機構で「はぴ福ナビ」という結婚マッチングシステムがあり、町民の皆様に周知、広報を図りたい。



佐瀬 真

地域おこし協力隊は

【佐瀬】応募者何人からの選考か。

【企画財務課長】 昨年は3名中2名。今年度は9名中3名を採用した。

【佐瀬】前年度の成果は。

【農林課長】 米の海外販売促進と町内需要の拡大。六次化も含むそば・野菜のブランド化を推進した。

【佐瀬】空き家実態調査を今後どのように活かすのか。

【商工観光課長】 定住促進を目的に、利用出来る物件は売却・貸付を進めていく。

【佐瀬】定住促進の観点で、他地域から来た協力隊の方々が契約後定住することが必要と推進要綱に書かれているが、施策は。

【企画財務課長】 契約終了後に本町に残り、定住して頂けるように個別の面談を実施している。採用業務が主だが、将来に向けて支援の協力をする。

【佐瀬】協力隊推進要綱には、隊員自らが起業も含め定住して頂くよう支援することがこの施策の意義とされている。また、募集内容以外にも多くのスキルを持っている方々だが、それを活かした活動も当町では必要ではないのか。

【町長】募集時の業務遂行が大前提であり、まず風土に慣れて頂き、彼らがその後当町で働き続けるのは、活性化、人口減少問題、情報発信に大いに役立つと考えている。

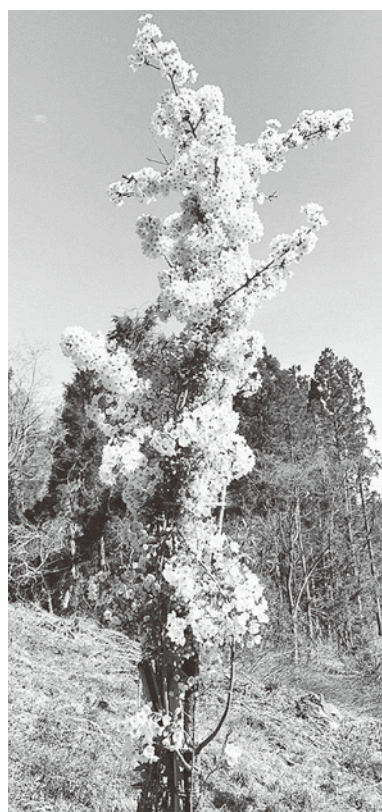
樹木の保護・整備は

【佐瀬】多くの観光客が訪れる重要な観光資源の桜、役場内でも複数の課が管理している以外にも、たくさん見所がある。今後、通年の樹木医をお願いすることは。

【町長】町全体の桜を保全するためには、年間を通じて樹木医を雇用する必要があると考えている。これについては慎重に検討する。

【佐瀬】観光上展望の良いところの伸び過ぎてしまった樹木の伐採を、植林も含めたシステム作りは出来ないか。

【町長】伐採は基本的に設置者が管理すべきと考えるが、法的課題も含め、協力・協議しながら努める。



まだ幼木のびわ沢原森林公園の桜

観光振興の推進強化が必要

【長澤】昨年の観光入込数は。

【商工観光課長】 16万3千人で、前年比マイナス1万5千人、雪不足のため6パーセントの減少となった。

【長澤】宿泊者の推移は。

【商工観光課長】 平成28年は51万3千人で、22年の震災前より8万2千人程度の減となっている。

【長澤】今期の観光施設の整備予定は。

【商工観光課長】 主な事業として、日本遺産関係では、猪苗代三十三観音の案内板6基と誘導看板2基を整備する。磐梯山川上登山道と達沢不動滝の倒木、古損木の処理を行う。

【長澤】誘客のための風評被害対策は従来通り行われるか。

【町長】教育旅行やインバウンド等の分野では、風評被害の影響が根強く残っているが、各種事業を実施していく。

【長澤】亀ヶ城公園結の里保存会との連携による取組みと将来展望は。

【建設課長】 亀ヶ城公園内に点在する歴史資料や四季折々の植物を活用した公園の整備、保存、継承を図り、賑わいあふれる公園づくりを推進するため25年に発足し、多くの町民に参加を頂き、官民一体となり取り組んでいる。



亀ヶ城公園で作業する結の里保存会の皆さん

【長澤】観光施設等の有効活用度合いは。

【商工観光課長】 道の駅を活用した磐梯山周辺の観光復興事業として、バスツアーやレンタサイクル実証実験事業を実施しており、結果を検証しながら有効活用に努めたい。

暮らしやすい町づくりの推進は

【長澤】高齢者世帯、貧困者等への救済制度は。

【保健福祉課長】 関係機関や民生児童委員などの協力を得ながら、各種助成制度、生活支援、自立支援の周知を図り、本当に必要な方に手が届いているか、現状把握にも努める。

【長澤】路地や住宅間の除雪対応は。

【建設課長】 保有機械による除雪が可能な路地等の狭隘道路は、利用している住民の方々が除雪を行っているのが現状である。

【長澤】交通の利便性が十分図られているか。

【企画財務課長】 すべての町民が納得しているものとは考えていない。町民の意見等を踏まえ、公共交通の組合せ等も研究し、無駄を省いて利便性の確保に努めたい。



長澤 操

Q. さらなる観光の推進強化が必要と思うが

A. 10万人10万泊事業を昨年に引き続き実施する

Q. 樹木医を通年でお願い出来ないか

A. 必要とは思いますが、慎重に考えていく



五十嵐ミエ子

交通弱者対策は

Q. デマンド型乗合タクシーの今後は
A. 関係機関と話し合い、検討する

【五十嵐】高齢者の運転免許証自主返納の環境づくりは。

【総務課長】町独自の返納制度はないが、福島県タクシー協会や高齢者運転免許自主返納サポート協議会等で支援を行っている。

猪苗代警察署、町交通対策協議会、交通安全協議会等と連携を図り、自主返納制度を周知するとともに、引き続き高齢者については、安全・安心な運転をお願いしたい。

【五十嵐】デマンド型タクシーの現状と全地域での利用は。

【企画財務課長】平成23年に運行を開始し、28年度の利用者数は3745人で、多くの方に利用いただいている。

利用できる範囲は、当初はバス停から2キロ以上だったが1キロに縮めている。路線バスも運行していることから、一定程度の区切りは必要と考える。運行形態を変更する考えはない。ご理解いただきたい。

農業振興の方向性と計画は

【五十嵐】現在の農地を維持するための農業振興は。

【農林課長】地域の担い手となる農業者や新規就農者の確保、集落営農の組織化、法人化を支援し、若い就農者の確保と支援のため、広域での人・農地プランを年内に策定する予定である。

また、農業施設の保全、維持には多面的機能支払交付金や中山間地域等直接支払交付金の活用等も有効で、共同活動により地域の農地の維持も推進していく。

【五十嵐】新規就農者、農業生産組織への支援体制は。

【農林課長】30年以降、米の生産数量目標の配分が終了し、産地間競争の激化が予想される。将来、安心して農業ができるような組織づくりをし、必要な支援体制を整え、活力ある農業を目指していく。



道の駅猪苗代に整備された六次化加工室

【五十嵐】六次化産業の現況は。

【農林課長】町六次化推進地産地消推進委員会を設置し、地場産品開発や産業振興の検討を進めている。また、道の駅猪苗代にある六次化加工室を活用し、町内地場農産物等を原材料とした産品開発を期待している。

子育て支援は

【星野】産後ケア事業の内容は。

【保健福祉課長】出産後の心身ともに不安定になりやすい一定期間に、保健指導を必要とする産婦及び乳児へ、宿泊ケアや日帰りケアが助産所等で行われる事業である。

【星野】こども園に併設している子育て支援センターの周知と機能充実は。

【こども課長】参観日やお便りで周知している。今後は、広報やホームページ等に掲載し、広く周知を図る。

また、利用者支援事業や親子教室、支援室の開放も検討していく。

【建設課長】毎年4月はじめに点検を実施している。危険箇所修繕等、公園内での事故防止、利用者の安全確保に努めている。

地域公共交通は

【星野】地域の実情に合った公共交通の充実が求められる。どのように利用促進を図っているか。

【企画財務課長】路線バスは、遠距離通学の定期券や遠隔地からの回数券の補助を実施している。今後、委託しているバス会社と協議を続け、利便性を図っていく。

デマンド型乗合タクシーは、現行体制を維持していく。

【星野】高齢者ドライバーの免許自主返納の支援策は。

【総務課長】今のところ考えていない。

がん教育の取り組みは

【星野】生涯にわたる健康づくり、検診の習慣化、罹患率の減少につなげるため、小中学校でのがん教育の取り組みは。

【教育総務課長】がん教育に関する特別な時間は設けていないが、保健体育の授業でがんになる要因や、がん予防の重要性も含め、学習している。



役場正面玄関側に設置されているAED

AEDの実態は

【星野】設置個所と台数は。

【総務課長】町有施設26ヶ所に27台を設置している。使用実績はない。

【星野】施設の時間外や夜間の対応は。

【総務課長】役場と町立猪苗代病院では24時間対応が可能である。その他の施設は施錠しているため、対応できない。

【星野】町民向け講習会の開催は。

【総務課長】猪苗代消防署で救命講習会を実施し、町民の方も受講できる。猪苗代消防署と連携を図り、広報誌による普及啓蒙など、広報活動を担っていく。



星野 あけみ

Q. 母子への産後ケアの取り組みは
A. 平成29年4月から町産後ケア事業を実施



関沢 和人

農業振興対策は

【関沢】平成30年から国の減反制度が廃止となるが方針は。

【農林課長】町農業活性化協議会を中心に県からの情報提供を参考にし、農業者の所得確保と米価安定、ブランド米を中心に売れる米づくりを目指す。

【関沢】国の減反に対する直接支払いに変わる支援は。

【農林課長】今のところ特にない。

【関沢】米の産地間競争が激化する中で、「猪苗代天のつぶ」の他に、適地適作の品種の考えは。

【農林課長】今年から一般作付けが開始された「里山のつぶ」も、今後ブランド米として推進していく。さらに、適地適作の品種改良を県に要望していく。

【関沢】今後、酒米の品種改良を県へ要請する考えは。

【農林課長】今後、酒米に活用できる一般米の生産活動を推進するとともに、オリジナル酒米の開発、品種改良を要望していきたい。



変わる減反政策

所得向上対策は

【関沢】現状と今後の対策は。

【企画財務課長】総務省の資料では、28年の町の平均所得は24万3千388円で、全国1741団体中1456位、県内59市町村中50位であった。第七次猪苗代町振興計画を推進し、所得向上につなげたい。

【関沢】原発事故による東京電力の賠償金が今後も支払われるよう、関係機関へ働きかける必要があるが。

【町長】賠償金の支払いや風評被害対策は重要な課題と認識している。関係団体と連携し、全力で取り組む。



瀧田 勝昭

Q. 日本遺産を町民に情報発信すべきでは
A. 周知の方法について検討する



三十三観音めぐり ～観音寺～

日本遺産の町として活性化は

【瀧田】町民に継続的に日本遺産の意識を情報発信すべき。また、未来を担う子どもたちに、猪苗代三十三観音、猪苗代湖と安積疏水を学習する機会を設けることは。

【企画財務課長】現在のところ具体的な方針はないが、町民の皆さんの意見を聞きながら、より良い周知の方法を考える。子どもにも理解ができ、ホームページでも提供できる内容の副読本等を作成し、町独自で何ができるか検討して情報発信に努める。

【瀧田】来町者へのおもてなしは。

【商工観光課長】昨年度、猪苗代観光協会で日本遺産登録を記念して、猪苗代三十三観音と紅葉を訪ねる日帰りツアーが実施され、町内では観音寺、西勝寺、長照寺、迎賓館、土津神社を散策するコースであった。本年度もチケットツアーで、会津三十三観音を組み入れる予定である。

【瀧田】町民の方の英知、それぞれの立場で日本遺産に関する考え方、意見を交換する場を設ける必要は。

【企画財務課長】町内で活動されている団体、個人の方々も含めて、一堂に会し、意見を交換する場も必要である。

【瀧田】町内にある国県指定の重要文化財、猪苗代三賢人、猪苗代八景など貴重な文化遺産の再認識は。

【生涯学習課長】再認識して活用するには、地域に残る風習や建造物、史跡等を地方史研究会等と協力し、進めていく必要がある。将来に向けて活用するために、学びな等で歴史講座、企画展や発表会、現地説明会を実施し、広く町民に理解いただけるよう努める。



一本の水路 ～志田浜～

【瀧田】文化遺産、四季、自然、食等の観光宣伝について、猪苗代町が昭和何をしてきたのか、平成になつて何をやるうとしたのか。観光の歴史を残すことにより、再発見があるでは。

【商工観光課長】絶えず過去を振り返って、今後の観光振興というものを考えていかなければならない。提言を踏まえて今後研究していく。

委員会レポート

文教厚生常任委員会

ひまわり・さくらこども園の状況は

調査内容

平成27年度に子ども・子育て支援新制度が施行され、学校と児童福祉施設の両方の位置づけを持つ幼保連携型の認定こども園として0歳児から就学前までの一貫した教育及び保育を、発達の連続性を考慮し行っている。

ひまわりこども園の入園児数は、0歳児6名、1歳児24名、2歳児32名、3歳児75名、4歳児68名、5歳児84名の289名である。昨年と比較すると、0歳が若干少なくなっているが、全体の入園児数は5名増えている。

さくらこども園の入園児数は、0歳児から5歳児まで、年齢ごとに1クラスずつ、全体で6クラス、96名である。本年度は3歳児が26名で、昨年より6名多い。

現在、待機児童は0である。教員数は配置基準を満たしているが、もう少し必要と考える。しかし、募集をしても申し込みがない。

ひまわりこども園が開設して1年が経過した。先生方が苦勞する面も見られたが、ひまわり・さくらこども園ともに、大きな事故や問題もなく、子ども達への教育や体力づくりなどしっかり運営ができています。



こども園の状況を調査

【意見】

子どもの安全を守るために、最低基準以上の保育士を確保すべく自助努力をしているが、人材を確保するために、労働条件や処遇改善をはかるべきである。

政府も幼児教育の無償化に向けた取り組みを段階的に推進しているが、幼児期の教育は生涯にわたる基礎を担う重要なものと据えられている。幼児教育を保障するため、幼児教育の無償化に向けた取り組みを行い、子育て支援の充実を求める。

総務常任委員会

防災行政無線の実態は

調査内容

防災行政無線の戸別受信機については、当初500台の整備予定であったが、その後、2000台を追加して整備を進めている。

スケジュール的には、難聴宅等の調査を行っていきながら5月までにすべてを完了する。

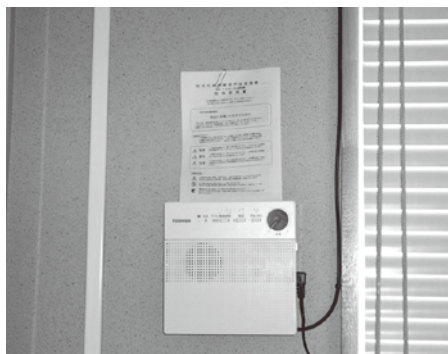
戸別受信機の内訳は、行政区長109台、集会所84台、公共施設52台、一般405台、予備50台の合計700台である。地区毎の設置見込み台数は、猪苗代地区200台、翁島地区150台、千里地区50台、月輪地区150台、長瀬地区50台、吾妻地区100台である。

戸別受信機の放送は、全地区放送と旧町村地区単位の放送が可能であり、屋外防災無線は子局が91箇所、中継子局は7箇所であり、個別対応が可能である。

また、自主防災組織については、各行政区に設立を毎年お願いし、規約までとはいかないが、名簿については、役場に提出していたにている。提出していたにている行政区は、全体の30〜40%である。

【意見】

戸別受信機を5月末までに行政区長宅に109台設置する案件は、



水防センターの戸別受信機

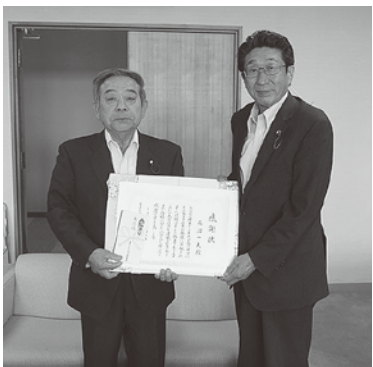
その設置方法と取り扱い方について、どのようにどこまで説明し、理解を得ているのか明らかでない。区長が代わるたびに、その受信機とアンテナを、設置し直す工事費はどの位掛かるのか、また、家の壁に穴を開け工事をして、移動の際その穴は埋めるのか、区長の同意を得ているのかなど疑問である。

一般に戸別受信機を設置する際、聞き取りをして設置すると説明されたが、その設置基準についても不明確である。

これらについて、説明と客観的な条件整備について明確にする必要がある。

自主防災組織についても、30〜40%の報告書しか提出されていないのは何故か、また、組織作りも積極的な行政指導が求められていると考える。

福島県町村議会議長会理事 お疲れ様でした



長沼一夫議長が、6月1日まで福島県町村議会議長会理事として、会務の運営に貢献した功績が称えられ、福島県町村議会議長会会長から感謝状が送られました。会津耶麻町議会議長会長の武藤道廣西会津町議長が、福島県町村議会議長会会長代理として猪苗代町議会を訪れ、感謝状が手渡されました。2年間、お疲れ様でした。

福島県町村議会広報研修会

県内40自治体、約260名が参加し、開催された。

広報誌は何よりも住民が読む気になれる内容が求められる。そのポイントとして

- ①議会の存在感を示す
- ②住民目線
- ③読みたくなる工夫
- ④議会の結果報告に終始しない
- ⑤住民参加型の広報
- ⑥議会情報の入手ルートを増やす

などが上げられる。

技術的には、写真や余白を上手に使い、思い切ったレイアウトでインパクトを与える。広報が変わると議会が変わった、と感じられると思うので常に読まれる広報誌を目指す必要がある。

「知らせる」という一方向ではなく、住民との対話企画や議会モニターなどで、情報を共有した内



研修を受ける広報編集委員

容にする。他町村の優良広報誌の情報を入手し、またクリエイティブの内容を活かして、ひと工夫した議会だよりにする。若い人たちに見てもうために、QRコードを広報誌に貼り付けるなど、SNSを有効に使い、今後の議会だよりを作成していきたい。

経済建設常任委員会

農業施策は

調査内容

放射能検査により山菜等は出荷制限を受けている。町営牧場は、平成28年度に草地更新が完了し、一般社団法人猪苗代振興公社で景観保全・収穫体験農園として利用予定である。

ブランド米（天のつづ）は、食味計を活用した基準づくりを構築し、JAや生産者とともに、県内外からナンバー1の評価を目指す。転作は、生産調整の為、土地利用型作物として蕎麦の作付けを推進してきた。30年からは主食用米配分はなくなるものの、転作物物に対する補助金等は継続される情報であり、今後も国の交付金等を活用し、「蕎麦の里」として今後とも作付けを推進していく。

鳥獣被害対策は、現在、町補助金や多面的機能交付金等を利用し、電気柵を導入している箇所は効果を発揮している。捕獲を実施した集落において、埋設箇所の確保をお願いし、住民と町が協力して捕獲体制の構築を目指している。

【意見】

国内外に適時適切に情報発信することに加え、第三者認証GAPの促進など、生産から流通・消費の全ての段階における風評対策を



今後も米の全量全袋検査に取り組む

強化し、ブランド化している「いなわしろ天のつづ」や「いなわしろ天の香」は、高付加価値のある商品としての確立を目指すべきである。

また、新規就農者の確保や農業法人の育成・新規事業の拡大を支援し、売れる商品開発など、地域産業の6次化の推進にも取り組んでいきたい。鳥獣被害については、引続き町補助金等を活用し、先進地などを参考にしながら町民と協力し、被害減少に向けた対策が望まれる。

町民の声



吾妻地区
西村 和貴さん

猪苗代の『宝』を世界へ

最近『体験型観光』という言葉が耳にします。

体験型観光とは、単に名所や名物を求めて巡る物見遊山の観光ではなく、それぞれの地域が持つ、資源を活かした体験プログラムを通して、自然・歴史・文化などにふれる観光のことです。

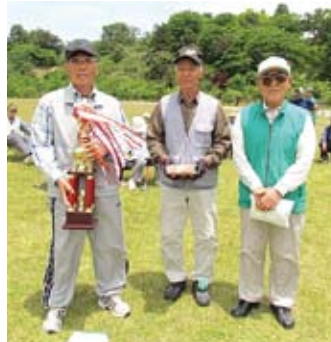
先日、体験型観光の1つである農業を初めて体験しました。印象的だった事は、普段目にする磐梯山よりも『農業をしているときに田畑から見上げる磐梯山』は、とても

素晴らしい雄大に見えた事です。そして、何より農家の方々が努力され、愛情を注がれた野菜の美味しさが、普段の何倍にも感じられました。猪苗代在住の私がこんなにも感動するくらいですから、都市部の方や外国人の方が体験したのなら、それ以上に自然や農業の素晴らしさを感じていただけははずです。

私たちの暮らす猪苗代町には、『日本ジオパーク』や『日本遺産』に認定されるように、世界に誇れる磐梯山や猪苗代湖をはじめとした、素晴らしい大自然や歴史、農業、アウトドアスポーツなど、アクティビティに満ち溢れています。この恵まれた環境を活かし、『体験型観光』をベースにグリーンツーリズムをさらに飛躍させ、二丁の高まる教育旅行やインバウンドなどに応え、今以上の活気ある町になる事を期待します。

議長杯GG大会

6月19日、カメリーナにおいて、議長杯GG(グランドゴルフ)大会が行われました。



男子は藤倉七夫さんが優勝、女子は小池亜子さんが昨年に引き続き優勝しました。おめでとうございます。

傍聴においで下さい

**9月議会は
9月5日(火曜日)
開会予定です。**

【一般質問予定日:11日(月)・12日(火)】

※質問者・質問内容については8月31日以降に町のホームページ(議会事務局)に掲載します。また各公共施設にチラシを掲示しますのでご覧ください。

揭示施設名

- ・役場町民ホール
- ・学びいな
- ・和みいな
- ・カメリーナ
- ・町立猪苗代病院
- ・老人福祉センター
- ・如風庵
- ・まちのえきまるしめ

議会広報編集特別委員会

細貝 功人

議長	委員	委員	委員	委員	委員	副委員長	委員長
長	員	員	員	員	員	長	長
長	渡	細	佐	瀧	星	佐	藤
沼	辺	貝	瀬	田	野	藤	公
一	二	功		勝	あ	英	男
夫	公	人	真	昭	けみ	一郎	

編集後記

6月定例議会も終了し、この議会だよりが発行される頃には、学校は夏休みを迎え、暑い夏をそれぞれに楽しんでいると思います。昨年オープンした道の駅も、6月には50万人の集客を達成したところでした。

議会だよりの発行については、全員で翌月発行を目標にして、日々研鑽を積み努力しています。

高齢化・少子化・風評被害対策等課題は山積していますが、議員全員で難題に取り組み、日々頑張っていますので、町民の方にも、議会に足を運んでいただき、助言等を得ながら議員活動に励みますので、今後皆様のご意見をお聞かせください。